

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

御代田町

No.	事業項目	事業名
1	「みんなの暮らしを守る森林づくり」に関する事業	御代田町松くい虫被害防除対策事業
事業費		1,200,100 円 (うち支援金: 667,000 円)

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

平成 21 年度から町内においてマツ材線虫病 (以下「松くい虫」という。) による赤松の立ち枯れの被害が広がっている。

(2) 本事業の目的

松くい虫被害木の伐倒駆除を実施し、被害拡大の抑制に努める。

事業内容

(1) 実施場所: 町内全域

(2) 対象者: 森林外の松くい虫が生じているところ

(3) 実施方法: 松くい虫被害木の伐倒駆除

(4) 事業目標及び当年度事業量

① 全体計画 (平成 30~令和 4 年度)

40m³ × 5 か年 = 200m³

② 令和 3 年度実績

20m³



事業効果

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害拡大の抑制。

(2) 継続性

松くい虫対策を行うことで、倒木による二次被害から住まいや農地を守ることができる。

(3) 普及性

松林の美しい景観を保持することができる。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

松くい虫被害木の伐倒駆除により被害拡大の抑制につながり、道路から見える赤松林の景観形成ができた。

(2) 課題

松くい虫による被害の最先端地域として軽井沢町へ被害が広がらないよう対応しているが、被害木は毎年発生しているため、今後も伐倒駆除が必要である。また、被害が拡大するようであれば他の補助事業も含めた防除事業全体を見直し、樹種転換、樹幹注入、空中散布等も検討していく。

(3) 今後の取組方向

■事業を現行どおり継続する

来年度以降も継続して実施していく。

事業内容を見直して継続する

事業を継続しない

令和3年度 推進支援金の検証・評価について

【令和3年度 市町村別 森林づくり推進支援金事業総括表】

1 小諸市	1 P
2 佐久市	3 P
3 小海町	5 P
4 佐久穂町	7 P
5 川上村	11 P
6 南牧村	14 P
7 南相木村	16 P
8 北相木村	18 P
9 軽井沢町	24 P
10 御代田町	26 P
11 立科町	28 P

(別記様式第15号)

令和3年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	小 諸 市
------	-------

No.	事業項目	事業名
1	「みんなの暮らしを守る森林づくり」に関する事業	小諸市松くい虫被害防除特殊伐採補助事業
事業費 1,298,000円 (うち支援金: 1,231,000円)		

事業目的

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

先端地域を中心に松くい虫被害木が確認できる。特に、建物、墓地及び道路付近の赤松が被害に遭っている。

(2) 本事業の目的

(1)の課題への対応方向について記載)

平成21年度より当事業を活用することで土地所有者が実施する枯損木の駆除に対して補助制度を設け、市全体の松くい虫防除対策の促進を図ってきた。

令和2年度の当事業実績は、件数42件、処理本数80本、総事業費511万円に及び、松くい虫被害の防除対策という事業の目的はもとより、二次被害の防止効果や土地所有者に対する所有地管理意識向上の啓発効果が期待できる。

事業内容

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所: 市内全域

(2) 対象者: 松くい虫被害による枯損木が存する市内の宅地または墓地等を所有または管理する者。

(3) 実施方法: 松くい虫被害木の伐倒処理を業者に委託する費用に対し補助を行った。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成30～令和4年度)

各年度 処理本数400本 補助金予算額4,000,000円

②令和3年度実績

処理本数119本 補助金額1,298,000円

伐
採
前



伐
採
後



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい被害木の倒木による二次被害防止。

(2) 継続性

松くい被害木が存在する限り、継続する必要性あり。

(3) 普及性

引続き補助事業を継続することで市内の美しい松林景観の造成を図る。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

当事業では、松くい被害枯損木の処理に対して補助制度を設けることで、2月28日時点で46件、119本に及ぶ処理を実施した。このことは、台風シーズンを迎える前に松くい被害木を早期に伐倒処理することにより、倒木による二次的被害を未然に防止する効果が絶大であった。また、土地所有者に対する啓発効果もあり、所有地管理意識向上が図られた。さらには、477万円を超える総事業費が管内の林業事業体にもたらす効果(雇用等)も事業評価の一端である。

(2) 課題

アカマツの多い千曲川以西の地域、東御市境や佐久市境で被害が甚大になっており、市内にも被害地が拡大し、その先端も標高1000m地点に迫っている。被害木が広範囲に広がっているため、全てを駆除することが困難な状況である。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

予算規模は縮小方向となるが、被害木の倒木による二次的被害を未然に防止する効果はもとより、土地所有者に対する所有地管理意識向上の啓発を図る。目的からしても、来年度以降も本事業を継続することで、市内の美しい松林景観の造成に寄与したいと考える。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

佐久市

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る森林づくり	松くい虫防除事業 伐倒・くん蒸業務
事業費 4,356,000円 (うち支援金: 2,800,000円)		

事業目的

- (1) 地域の森林・林業の現状と課題
松くい虫被害が拡大しており、急激な被害拡大の防止が課題となっている。
- (2) 本事業の目的
国の補助対象とならない箇所につき、被害木の伐倒・くん蒸を実施することで被害の拡大を防ぐ。

事業内容

- (1) 実施場所 佐久市全域
- (2) 対象者 市民等
- (3) 実施方法 被害木の伐倒・くん蒸
- (4) 事業目標及び当年度事業量
 - ①全体計画 (平成30年度～令和4年度)
2,714 m³ (佐久市内全域)
 - ②令和3年度実績
282 m³ (佐久市内全域、うち森林づくり推進支援金 201 m³)



事業効果

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害拡大の防止が図られる。

(2) 継続性

継続して松くい虫防除事業を行うことにより、急激な被害拡大を抑制できる。

(3) 普及性

区の要望に基づき被害木の伐倒・くん蒸を行うことで、地域住民に事業効果を実感してもらえる。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

現地調査の結果、当初計画よりも被害木が確認できたため、被害の拡大を防ぐため事業量を 156 m³から 201 m³に増やした。

(2) 課題

事業の実施により、急激な被害拡大は抑制されているが、未被害地域への被害拡大を防ぐため、今後も事業の実施が必要である。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

事業内容(4)事業目標及び当年度事業量①全体計画に基づき、来年度以降も引続き事業を実施していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

小海町

No.	事業項目	事業名
1	「森林を支える豊かな地域づくり」に関する事業	緩衝帯整備事業
事業費 990,000 円		(うち支援金: 902,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

町内人工林の大部分はカラマツであり、伐期を迎えつつある。

手入れがなされていない山林が多く、ニホンジカなどの格好の住処となっている。

ニホンジカなど有害鳥獣の駆除を進めているが、未だ農林業被害の発生は続いている。

(2) 本事業の目的

耕作農地周辺の立木を伐採し、緩衝帯を整備することで、有害鳥獣による農林業被害を抑止する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 小海町大字千代里 宮下・溝の原地区

(2) 対象者 宮下・溝の原地区住民

(3) 実施方法 伐採

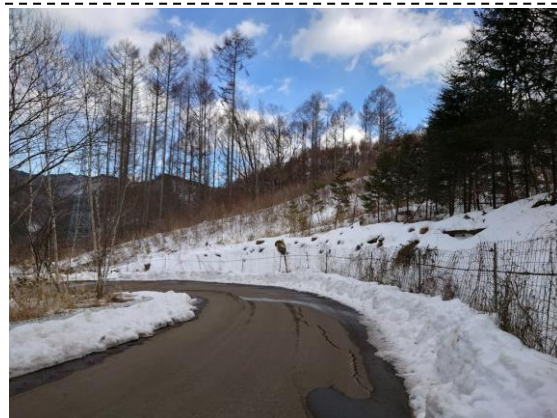
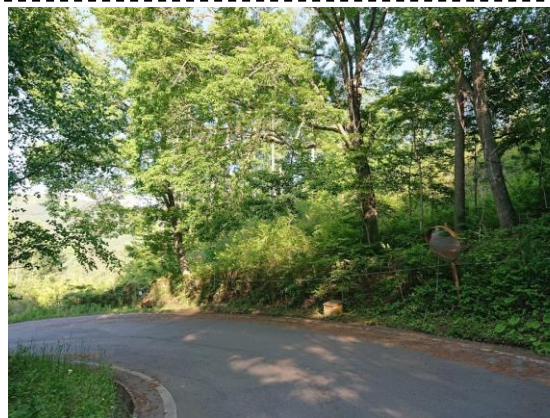
(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

2.5ha 緩衝帯整備

②令和 3 年度実績

L=300m 緩衝帯整備



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

緩衝帯の整備により学校周辺・農地、道路への有害鳥獣の侵入、農林業被害を抑止できる。

(2) 継続性

本事業による緩衝帯の整備後、継続的に草刈等を実施することにより緩衝帯機能の維持を図る。併せて周辺地域の緩衝帯整備を進めていく。

(3) 普及性

緩衝帯整備により明らかに有害鳥獣の侵入が抑止されるものと考えられるため、他地域での導入が図られる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

緩衝帯の整備によりニホンジカを目撃情報が少なくなったため、交通事故発生の予防が図られた。

本年度事業目標(L=300m)は達成されたので、引き続き全体計画(平成30～令和4年度)2.5ha緩衝帯整備を進めていく。

(2) 課題

緩衝帯の整備は樹木の成長により年々その効果が薄れていくため、地域住民の協力を得ることにより効果の維持に努める必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

引き続き、全体計画(平成30～令和4年度)2.5ha緩衝帯整備の整備を進め、住宅地等への有害鳥獣の侵入を抑止していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

佐久穂町

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松くい虫被害枯損木発見等立木調査業務
事業費		990,000 円 (うち支援金: 990,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫の被害は年々拡大しており、佐久穂町も被害地域内に位置している。

このまま被害が拡大すると、佐久穂町以南のマツタケ産地である小海町や北相木村、南相木村にも被害が及ぶ可能性が高い。

(2) 本事業の目的

被害木を早期発見し、伐倒駆除等の効果的な総合防除を行い、拡大する被害を防止し、守るべき松林を守ることを目的とする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 佐久穂町内全域

(2) 対象者 佐久穂町民

(3) 実施方法

被害木早期発見のための調査を林業業者へ委託し、実施した。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

佐久穂町内全域の被害木発見等立木調査を毎年度実施する。

②令和 3 年度実績 佐久穂町内全域の被害木発見等立木調査を実施した。

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

被害木の早期発見により、佐久穂町内へ拡大する被害を防止するとともに、近隣市町村への拡大を防止することができた。

(2) 継続性

被害木の調査により、早期発見し、被害拡大を防止するとともに、佐久穂町内の被害状況や拡大状況を把握することで今後も早期の対応をしていく。

(3) 普及性

被害木を調査し、所有者にお知らせすることで松くい虫被害について知ってもらい、防除の必要性や環境への影響、松林の適切な管理の重要性を知ることで被害防止の一助を担ってもらえることができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

被害木の調査により、被害木を早期発見することで伐倒駆除につなげることができた。また、佐久穂町内の被害状況や拡大状況を把握することができ、今後の対応につなげていく。

(2) 課題

松くい虫の被害は年々拡大傾向にあるため、早期発見による伐倒駆除が必要となる。そのため今後も調査業務を行い、松くい虫被害の拡大防止を図っていく必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

実施場所 佐久穂町内全域

実施方法 佐久穂町内全域の被害木発見等立木調査を実施する。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和3年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	佐久穂町
------	------

No.	事業項目	事業名
2	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松くい虫被害防除対策業務
事業費		294,000 円 (うち支援金: 132,000 円)

事業目的

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題
松くい虫の被害は年々拡大しており、佐久穂町も被害地域内に位置している。
このまま被害が拡大すると、佐久穂町以南のマツタケ産地である小海町や北相木村、南相木村にも被害が及ぶ可能性が高い。

(2) 本事業の目的
被害木も早期発見し、伐倒駆除等の効果的な総合防除を行い、拡大する被害を防止し、守るべき松林を守ることを目的とする。

事業内容

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 佐久穂町内全域

(2) 対象者 佐久穂町民

(3) 実施方法
県が交付する補助金等の交付対象事業(松林健全化推進化事業等)の対象外となる被害木の伐倒駆除を林業事業者へ委託し、実施した。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成30～令和4年度)
県の補助金交付対象外の箇所において伐倒駆除を実施予定。

②令和3年度実績 伐倒数10本(9m³)



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

被害木の伐倒駆除により、佐久穂町内へ拡大する被害を防止するとともに、近隣市町村への拡大を防止することができた。

(2) 継続性

集団的かつ継続的に発生している松くい虫被害に対して、被害木の伐倒駆除を継続することにより、拡大する被害を最小限に抑え、維持することができた。

(3) 普及性

被害木は松林の中では目立つものであり、伐倒駆除により事業実施の効果を知らせることができる。また、所有者へお知らせをすることで松くい虫被害について知ってもらい、防除の必要性や環境への影響、松林の適切な管理の重要性を知ることで被害防止の一助を担ってもらうことができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

これまでは県が交付する補助金等の交付対象事業の対象となる被害木のみの伐倒駆除を行っていたが、本事業により県の補助金交付対象外となる被害木についても伐倒駆除を行うことができた。それにより被害拡大防止に向けて、より一層の効果を発揮することができた。

(2) 課題

松くい虫被害は年々拡大傾向にあるため、今後も被害木の増加が懸念される。引き続き伐倒駆除により被害拡大防止を図っていく必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業実施見込み：伐倒数 20 本

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村 名	川上村
----------	-----

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	カラマツ木育事業
事業費		1,177,290 円 (うち支援金: 1,067,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

- ・カラマツを中心とした 50 年以上の人工林は成熟期を迎え、伐って利用する時期となっている。そのため、よりカラマツ材の利用促進を図る取組が必要です。
- ・林業生産活動の停滞による林業従事者の減少により、森林の保全、木材の安定供給に影響を及ぼす懸念があります。

(2) 本事業の目的

- ・児童に対して、カラマツ材利用の大切さや村の産業を支えた林業、木材に興味をもってもらうための体験学習の場を設ける。また、本事業で植栽した立木を保護するため、鳥獣被害防止柵を整備する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

- (1) 実施場所 別添「カラマツ木育事業予定表」のとおり
- (2) 対象者 別添「カラマツ木育事業予定表」のとおり
- (3) 実施方法 別添「カラマツ木育事業予定表」のとおり
- (4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

カラマツの苗作りから始まり、植栽、間伐、加工という林業の一連の流れを小学生に体験してもらう。

②令和 3 年度実績

- ・しいたけの植菌・カラマツの苗作り、植栽、間伐体験、コースター作り、椅子作り

1. しいたけの植菌



2. 苗づくり



3. 植栽



4. 間伐体験



5. 椅子づくり



6. コースター作り



6. 野生鳥獣侵入防止柵設置



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

児童に森林や木に触れ合う機会を提供することで、親しみや理解を深めてもらうとともに、森林の役割やカラマツ材をはじめとした様々な木材の特徴を伝えることができる。

(2) 継続性

種まき→植栽→伐採→加工という林業の流れを、小学校3年生から6年生まで毎年異なるテーマで実施し、森林の保全や利用促進のための取組を多くの児童に伝えられる機会となる。

(3) 普及性

本事業を通して林業に関心を持った児童が、将来林業に携わる仕事に就くことを期待している。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・本年度は合計112名の児童がテーマ毎の木育事業を体験した。
- ・当村の森林の歴史や現状について理解を深めることができた。
- ・カラマツ材の良さ、利用する大切さを学ぶことができた。

(2) 課題

- ・中学生を対象とした林業教育の充実を図る必要がある。

(3) 今後の取組方向

■事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- ・今後も目的達成のために、引続き小学生を対象とした木育事業を実施する。

□事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

□事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	南牧村
------	-----

No.	事業項目	事業名
	森林を支える豊かな地域づくりに関する事業	緩衝帯整備事業
事業費 5,000,000 円 (うち支援金: 700,000 円)		

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

南牧村内では民有林が多く、カラマツが多くを占めている。カラマツの価格低迷などにより林業への関心が薄れているため、手が施されていない森林が多く残っている。そのため、道路沿線に木が鬱蒼としており、鹿等の飛び出し事故が多発している。

(2) 本事業の目的

緩衝帯整備を行い、鹿等が道路に飛び出しにくい環境づくりを行う。

事業内容

(1) 実施場所

南牧村 大字 海ノ口 県道梓山海ノ口線

(2) 対象者

民有林所有者

(3) 実施方法

道路沿線の木の伐採を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30 年度～令和 4 年度)

村道海尻芦平線 沿線 (L=590m)

県道梓山海ノ口線 沿線 (L=1,800m)

村道野辺山平沢線 沿線 (L=1,270m)

②令和 3 年度計画

県道梓山海ノ口線 伐採延長 L=700m



事業効果

(1) 事業実施による効果

道路沿線の緩衝帯整備を行う事により、運転手からは見通しがよく、しかも緩衝帯があることにより、鹿等の野生鳥獣が飛び出しにくくなる。また、所有者が独自で更新（伐採・植栽）をすることにもつながり、別路線も日当たりがよくなった。

(2) 継続性

樹木を伐採すれば、後年は比較的軽微な草刈り作業のみで、継続的に緩衝帯を維持することができる。

(3) 普及性

緩衝帯を整備することで、地域住民が運転しやすく鳥獣等との事故を抑制できる。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

道路沿線の伐採によって、とても見通しのいい道路となった。観光客も通る主要幹線道路であるので、費用対効果はとしても高いものであった。

(2) 課題

森林所有者に対し現場立ち合いの場を設けるため、通知書の発送や電話での連絡を試みた。しかし、1名の森林所有者と連絡を取ることができず、本事業の対象外とする箇所ができてしまった。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

今年度と同様に別路線の緩衝帯整備を行い、見通しのいい道路としていく。

事業内容を見直して継続する

事業を継続しない

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

南相木村

No.	事業項目	事業名
1	木を活かした力強い産業づくり	木資源活用推進事業
事業費 532,660 円 (うち支援金:		532,000 円)

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

本村の人工林は、偏った齢級構成のまま成熟期を迎え、計画的な更新により森林資源の持続的安定供給が可能な森林造成と森林資源の有効活用が課題となっている。

(2) 本事業の目的

県産材を使用した木製品を多くの人々の目に付きやすい公共施設に設置し、県産材の更なる活用普及を図る。

事業内容

(1) 実施場所 南相木村 字川俣 不戦の像周辺

(2) 対象者 地域住民及び来村観光客

(3) 実施方法 多くの人々が訪れる不戦の像の周辺に県産材を使用した手すりを設置(改修)する。地域住民や来村者に直に触れてもらい、県産材の活用について解説パネル等で理解を深める。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30 ~ 令和 4 年度)

県産材で製作した木製品設置 20 基

②令和 3 年度計画

ー南相木村 字川俣 不戦の像周辺 木製手すり改修ー

村の入り口である字川俣には「別れの松」という二本横並びになった赤松があり、この場所は戦時中に兵役に出る者を家族が見送った、村民にとっては思い入れのある場所である。昭和 60 年に戦争の惨禍を繰り返すことの無いよう、当時見送った家族をかたどった不戦の像を建設し、平和への誓いを新たにした。現在は村外からもこの像を見に来る人も多くなってきており、村の名所の一つとなっている。令和 2 年度は県産材を使用したベンチを設置し、人々が集える場所とした。現場は土手が高く危険であるため手すりがあるが、老朽化が著しい。そこで、県産材を使用した手すりに改修し危険防止を図るとともに、県産材の普及を図っていく。



事業効果

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

木質製品を設置し、身近に感じていただくことで地域住民や来村者が木質製品に親しむことができ、村産材を活用した製品の需要の創出が期待できる。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

村内公共施設に木質製品を増やすことで、村内で木を使うことが常用的となり、更に木質製品の波及効果が期待できる。これにより村内での木材需要の拡大につなげて行く。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

地域住民や来村者が多く利用する村内公共施設を木質化することで、多くの方が実際に木製品に触れ、解説パネル等を通じて事業について知ることができる。

事業評価と今後の取組

(1) 目標に対する成果の状況

平成30年度から令和4年度の全体計画は木製品の設置20基で、このうち平成30年度に6基、令和元年度に6基、令和2年度6基の木製ベンチの設置と本年度、木製手摺の改修を一か所行った。本年度は、名所の一つでもある不戦の像の木製手摺を改修したことにより地域住民に興味を持ってもらう事ができた。

(2) 課題

ウッドショックによる国産材の需要増加という追い風もあり地域住民が木質製品に興味を持ち親しんでもらう事ができた。地域住民に興味を示すことが出来たが、村外者に村産材の魅力を発信できるような事業を検討する必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する
地域住民に興味を持ってもらう事が出来たため、来村者に興味を持ってもらうように検討する。

事業内容を見直して継続する

事業を継続しない

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

北相木村

No.	事業項目	事業名
3	木を活かした力強い産業づくり	木質化推進事業 (木製コサージュ制作)
事業費		66,000 円 (うち支援金: 66,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

主林木であるカラマツの林齢が、11 齢級(51 年生)以上が 1,696ha(69%)で更に 13 齢級(61 年生)以上では、517ha(21%)、6 齢級(30 年生)以下は、2.93ha(0.1%)と著しく偏った齢級構成となっており、次代へのカラマツ林の更新が大きな課題。

(2) 本事業の目的

(1) の課題への対応方向について記載)

卒業生に木工製品から木や自然を身近に感じてもらい、北相木の森林・林業に興味を持ってもらうことで、北相木の山の将来を考えてもらうきっかけにしたい。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 北相木小学校 他

(2) 対象者 卒業生 他

(3) 実施方法

- ・木材の鉋屑を利用した木製コサージュを卒業生に身に付けてもらう。
- ・卒業式等のイベントにて、キノハナを飾り、木の香りや木の魅力を感じてもらう。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和元年度～令和 4 年度)

木製品の活用方法の拡大

②令和 3 年度実績

木製コサージュ: 20 個



(左)
小学校
13 個

(右)
保育園
7 個

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・木製品にふれあうことにより、子供たちの木材・林業への関心を高める。また、枯れることはないのでも北相木小学校・保育園で体験した林業体験を思い出してもらいたい。

(2) 継続性

- ・地元産カラマツを利用することにより、木製品としての価値を再認識してもらおう。
- ・木材の新たな利用方法として認知してもらい、利用方法の拡大を図る。

(3) 普及性

- ・卒業生の大半が県外でもあり、県内外に北相木産カラマツや木材の利用方法拡大、PRを実施できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・コサージュから漂う木の香りや、木によって違う花の色を見て、木に興味を持ってもらえた。
また、林業体験や木工体験の記憶を思い出してもらえた。

(2) 課題

- ・小学生へのカラマツ製品の認知度は高まってきているが、村民への認知度が今一つ感じられず、今後の取り組みの課題である。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- ・毎年、卒業生へのプレゼントにしていくことを検討したい。また、ワークショップなどを通して、木との触れ合える機会を増やしていきたい。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

北相木村

No.	事業項目	事業名
2	木を活かした力強い産業づくり	木質化推進事業(公共施設木製品設置)
事業費		301,400 円 (うち支援金: 310,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

主林木であるカラマツの林齢が、11 齢級(51 年生)以上が 1,696ha(69%)で更に 13 齢級(61 年生)以上では、517ha(21%)、6 齢級(30 年生)以下は、2.93ha(0.1%)と著しく偏った齢級構成となっており、次代へのカラマツ林の更新が大きな課題。

(2) 本事業の目的

(1) の課題への対応方向について記載)

北相木産カラマツを活用して製作することにより、地元産材を効果的に活用するとともに、地元産材の魅力を県内外にアピールする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 北相木村診療所 及び 介護施設

(2) 対象者 施設利用者及び村民、来場者

(3) 実施方法

北相木産カラマツを使用した木工製品(看板・収納ボックス・イス・テーブル)を制作し配置する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30~令和 4 年度)

木製備品の設置

②令和 3 年度実績

診療所: 木製看板 6 枚, 木製イス 1 台

介護施設: 収納ボックス 1 台, 介護補助テーブル 3 台



(左)

診療所

木製看板

(右)

介護施設

介護補助テーブル

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・木製品にふれあうことにより、村内外の来場者に木材・林業への関心が高められた。

(2) 継続性

- ・木製品の良さを認識してもらい、将来的には公共施設の木質化を進めていきたい。さらには、一般家庭への木質化の普及に取り組んでいきたい。

(3) 普及性

- ・診療所や介護施設の利用者に地元材(北相木産カラマツ)の良さが伝わることで、今後の森林整備・木材利用の推進につながる可能性がある。
- ・公共施設の木質化を進めることで、木材に見たり、触れたりする機会が増え、木の魅力発信に繋がっている。また、施設内が木質化されることにより雰囲気も良くなる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・設置後、すぐに来場者が興味を示し木製品への関心の高さがうかがえた。
- ・施設内の木質化が進んだことにより雰囲気が良くなった(今まではプラスチック・合板テーブル使用)。

(2) 課題

- ・村民のカラマツに対する悪いイメージの克服が、今後の取り組みの課題である。
- ・設置したカラマツ家具等を見てもらい悪いイメージを改善していきたい。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

公共施設への普及を図っていきたい。

- 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

北相木村

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る森林づくり	防災・減災のための森林調査事業 (ドローンによる上空からの森林調査)
事業費		269,500 円 (うち支援金: 163,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

- 北相木村の集落周辺に広がる里山は、古くは地域の共有林として管理され個人分割された森林が多く、燃料革命以降、森林の燃料としての利用が低下したことに伴い、整備が行き届かず放置された森林が目立つようになっている。森林所有者の山離れも深刻で、このまま放置すれば倒木や山崩れなど災害の発生を誘因することも懸念される。

(2) 本事業の目的

(1) の課題への対応方向について記載)

- 村民の暮らしを守るための森林整備を効果的に進めるために、優先順位を決めて森林整備を進めていくことが重要だと考えている。そのために、北相木村の里山の全体的な森林状況を把握し、効率的に現地調査・森林整備を行い、里山の「防災・減災」につなげて行く。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 北相木村 山木 (村有林)

(2) 対象者 村民

(3) 実施方法

- ドローンにより今年度村有林の森林整備エリア (山木地区) を調査する。その後、今回の調査データを元に個人有林や里山林の森林整備の計画に使用していく。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

- 村内の集落・農地周辺の里山林を中心に撮影し、「防災・減災」に向けた森林整備の基礎資料として活用する。(R5 年度以降についても、毎年継続し実施して行く。)

②令和 3 年度実績

- ドローンの購入、整備が必要な森林の抽出や調査に活用した。
- 今年度村有林の森林整備エリア (山木地区) の調査データとした。



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・ドローンを活用して上空から森林調査を実施することにより、村民の暮らしを守る森林づくりのための調査データがとれた。

(2) 継続性

- ・里山整備を効果的に進めていくために、継続し実施することが必要だと感じた。また、里山整備の促進につながることを期待できた。

(3) 普及性

- ・ドローン空撮の写真を活用し、住民や森林所有者への説明することにより、森林整備の理解や協力を得やすくなる。
- ・里山の森林整備が進むことで、村民の生活が安心感を得られる。
- ・身近な里山が整備されることで村民が森林や森林整備に興味を持ちやすくなる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・ドローン空撮の写真を活用することで森林調査の簡素化に繋がる可能性が感じられた。
- ・森林所有者や村民に現状の森林の様子を説明しやすくなったと感じた。
- ・里山林の整備の促進に活用していけると感じた。

(2) 課題

- ・森林整備を進めるにあたり、村民のカラマツに対する悪いイメージの克服が今後の取り組みの課題である。
- ・森林整備の必要性のPRや再造林の必要性などを伝えていくが必要になると思う。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

公共施設への普及を図っていきたい。

- 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

軽井沢町

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	緩衝帯整備事業
事業費		1,100,000円 (うち支援金: 927,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

住宅地の周辺を囲む民間の森林(別荘地)は適切な管理がされていない箇所があり、藪の深い場所では野生動物が潜み易い環境となっている。

(2) 本事業の目的

野生動物の被害防止のため緩衝帯整備として森林整備を行う。見通しの良い環境を整備することで、住居エリアへの侵入を防ぎ、野生動物の潜み易い場所を解消することが出来る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 軽井沢町内(上発地区)

(2) 対象者 軽井沢住民(上発地区)

(3) 実施方法 草刈り機使用(藪刈り、刈り倒し)面積 11,000㎡
道路より奥行10m以内の範囲

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成30年～令和4年度)

平成30年度(大日向地区) 11,500㎡

令和元年度(古宿地区) 11,000㎡

令和2年度(千ヶ滝中区、離山区) 11,000㎡

令和3年度(上発地区) 11,000㎡

令和4年度(馬取区) 13,000㎡

②令和3年度実績 軽井沢町内(上発地区) 11,000㎡



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

緩衝帯整備事業の刈り払いを実施することで住居エリアへの侵入を防ぎ、野生動物の潜み易い場所を解消することが出来る。

(2) 継続性

住宅エリアへの野生動物の侵入を予防するため、今後も計画的に進めていく。

(3) 普及性

藪刈り実施の承諾を所有者から得ることにより、藪を放置すると野生動物が潜む可能性があることを啓発出来る。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

民有地の藪刈りを実施することで見通しが良くなり、野生動物の潜み易い場所を解消することが出来た。

(2) 課題

所有者から藪刈りの承諾を受けられない場合、又実施箇所で刈り取れない植栽があると一部で見通しが良くならない事が生じる。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

住居エリアへ野生動物の侵入を防ぐため、対象となる地区について藪刈りを計画的に実施していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

立科町

No.	事業項目	事業名
1	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	県産間伐材を用いたベンチの設置事業
事業費 631,400 円 (うち支援金 : 587,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業も現状と課題

立科町では、林業の低迷等から森林への関心が薄れている。

このことから、当町では林業の成長産業化と森林の適切な管理の両立を図ることを目標としております。

(2) 本事業の目的

県産間伐材を使用している旨を印したベンチを設置することで、森林税や間伐材などの身近な林業への関心を高める。

事業内容

(1) 実施場所

女神湖周辺及び耕福館前

(2) 対象者

町民及び観光客

(3) 実施方法

県産間伐材をベンチに加工し、県産材の PR を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30 年～令和 4 年)

県産間伐材使ベンチ 10 基設置

②令和 3 年度実績

県産間伐材使用ベンチ 8 基設置



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

県産間伐材利用の促進。森林税活用のPR効果。林業の活性化。

(2) 継続性

効果の普及拡大のため、各観光地からの要望に基づき、今後も各所へベンチを設置することを検討する。

(3) 普及性

立科町各所にある観光地に、県産間伐材使用のベンチを設置することにより、住民や観光客への県産材や森林税の活用について、PRすることができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

女神湖周辺は観光地であり、耕福館は町民及び町外の方も利用するためPRの効果が期待できる。

(2) 課題

木製品ベンチを屋外に設置することから、腐敗等による事故を防ぐため、定期的な点検が必要。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

各観光地から要望があり次第、継続を検討する。

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

立科町

No.	事業項目	事業名
1	「みんなの暮らしを守る森林づくり」に関する事業	立科町松くい虫防除伐採補助金
事業費 141,000 円 (うち支援金: 141,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

立科町の里地区の森林はアカマツ林が多く、松くい虫被害を受け、個人所有者は大変苦慮しているところである。

また、山林に隣接している、墓地などへ被害が拡大している。

(2) 本事業の目的

山林以外等のアカマツが松くい虫の被害に遭っていることで、被害木の倒木による二次被害を防止するため。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 立科町内一円

(2) 対象者 立科町に土地を所有している者

(3) 実施方法 被害木の伐倒・くん蒸及び焼却

(4) 事業目標及び当年度事業量

被害のまん延防止のため、適切に伐倒を行った。 アカマツ: 48 本

① 全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

年度	H30	R1	R2	R3	R4
事業量	44 本	32 本	48 本	11 本	45 本
支援金	749 千円	471 千円	598 千円	141 千円	772 千円

② 令和 3 年度実績

アカマツ 11 本を伐倒・くん蒸及び焼却



(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害のまん延防止対策として、適切に枯損木を処理することで、被害を未然に防ぐ。

(2) 継続性

松くい虫による枯損木は年々増加している状況で、山林以外のアカマツへも被害が拡大していることから、将来にわたり、事業を推進していきたい。

(3) 普及性

国庫補助対象とならない、山林以外等の松くい虫被害木の伐倒・くん蒸処理を行うことにより、住民の目に付きやすく、松くい虫被害防除対策への理解が得られる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

広報誌で住民に周知した結果、処理本数が目標に達成した。また、補助金を活用し処理をしようという意識が生まれ、被害の蔓延防止につながる結果となった。

(2) 課題

市町村境の山林を中心に松くい被害が拡大し、里内でも松くい虫による被害が見受けられるが、里内での倒木はその隣地等へ、物理的な被害を生む可能性が考えられる。

また、町外在住で当町に所有地のある方からの申請も数件見受けられ、駆除本数も多い。

町外在住者における土地管理は深刻な問題であり、補助金を活用し管理意識を高める目的でも、補助金事業を広く周知する必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

年度	R2	R3	R4
事業量	48本	11本	45本
支援金	598千円	141千円	772千円

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)